

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第683号 平成26年2月4日

## 子どもの幸福度と貧困（2）

日本の子ども達の幸福度は、先進国の中で6位と良く健闘していますが、中身を見ると、1位の分野もありますが、かなり成績の悪い分野もあります。

中でも、「物質的豊かさ」という項目が31カ国中21位と評価されている事は、日本の子ども達の貧困の問題の深刻さを、改めて示す形となっています。

「物質的豊かさ」を測る指標として「子どもの総体的貧困率」と「子どもの剥奪率（特定の物が欠如している子どもの割合）」が使用されていますが、共に日本は中央値に達していません。

日本は、「子どもの総体的貧困率」は14.9%で22位であり、また、貧困ラインと貧困ライン未満の世帯とのギャップも26位と、かなり厳しい評価となっています。

また、年齢に適した本やインターネット接続等特定の物が2つ以上欠如している子どもの割合（剥奪率）も、20位と低い位置にいます。

我が国は、経済的発展を遂げ、巷にはモノが溢れ華やかに見えますが、その一方で、多くの子ども達が貧困の中で十分な学びの機会さえ奪われている事は、極めて大きな問題です。

日本の子ども達の貧困の問題は、日本の将来に大きな影を落としています。子どもの貧困の一番の問題は、それが一過性ではなく、親から子へと連鎖して行く事です。

今こそ国においては、貧困の連鎖を断ち切り、親の経済力に係わらず、子ども達が生き生きと暮らし、その持てる力を伸ばす事が出来る様、真剣に子どもの貧困問題に立ち向かっていただきたいと思えます。

「健康と安全」という項目については、31カ国中日本は16位となっています。

日本は、乳児、子どもと若者の死亡率ではかなりの好成績だったものの、低体重で生まれた子供の割合が最も多かった事が16位という成績に繋がったものと思われます。これについて報告書では、低体重の女性の増加、若い女性の喫煙の増加、所得格差の拡大等を原因として指摘しています。

「住居と環境」という項目については31カ国中10位と、比較的健闘しています。

「住居と環境」を測る指標として使用されている「1人当たりの部屋数」や「住居に関する問題」という点では評価は高くなかったものの、「殺人発生率」の低さや「大気汚染」のレベルの低さが10位という結果に繋がったものと思います。

以上の結果に対して、「教育」と「日常生活のリスク」という項目ではいずれも1位でした。

そこでまず、「教育」の項目について見てみましょう。

「教育」を測る指標には、「就学前教育就学率」「高等教育就学率」「ニート率」「学習到達度（PISA）」が使用されており、「教育」分野での上位5か国の状況は下表の通りです。

「教育」分野の指標別順位

指標	1位 日本	2位 オランダ	3位 ベルギー	4位 ドイツ	5位 フィンランド
就学前教育就学率	6	2	4	10	30
高等教育就学率	10	7	1	11	13
ニート率	10	6	15	8	12
学習到達度	2	4	8	7	1

（注1）1位、2位とあるのは、「教育」分野における順位である。

（注2）表内の数字は、指標別の各国の順位である。

この表を見ても分かる様に、学習到達度以外の指標を見ると他国に対して特別優れているという訳ではあ

りませんので、学習到達度（PISAの結果）が良かった事が1位という評価に繋がったものと思います。

「日常生活上のリスク」を測る指標には「肥満児の割合」「毎日朝食をとる割合」「10代の出生率」「飲酒する割合」「いじめを受けた事のある割合」が使われています。これらの指標について個別に見て見ると、

- 「肥満児の割合」は、日本が4.9%で1番少なく、2位のオランダの約半分となっています。
- 「毎日朝食をとる割合」も、日本は86.6%と1番高くなっています。英国は61.1%、米国は50.6%と日本と比べるとかなり低い状況にあります。
- 「10代の出生率」、つまり10代で出産した子どもの1000人当たりの割合ですが、日本は5.4%で4位となっています。因みに、英国は29.7%で日本の5.5倍、米国は35.7%で日本の6.6倍となっています。
- 「飲酒」については、日本は1.6%で1位となっています。2位のアイスランドは3.0%で日本の約倍となっています。
- 「いじめ」に関しては、過去数か月に1回以上いじめられたと答えた11歳、13歳、15歳の割合が日本は27.4%で12位となっています。

この様に、日本の子ども達は、他国の子供たちと比較すると比較的健全な生活をしていますが、いじめの問題が深刻である事は、今回の調査結果からも伺われるところ です。

以上、特別編集版の資料を基に、日本の子ども達の幸福度について見て来ました。

結果は、それ程驚くものではありませんでしたが、「日本の子ども達の幸福度は先進31カ国中6位」と胸を張っていられる状況ではないという事ははっきりしていると思います。

子ども達の為に、日本という国も国民も、もっともっと心とお金を使うべきです。それは、日本の将来への投資に外なりません。特に、子どもの貧困の問題を放置する事は、日本の将来への道を自ら閉ざす事になるでしょう。（塾頭：吉田 洋一）